資料６－２

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

（報告）

議員名　：　明治大学　牛尾 奈緒美

【開催趣旨・目的】

男女共同参画推進連携会議構成団体の１つである「日本私立大学団体連合会」に属する明治大学の下位組織（情報コミュニケーション学部に属する一機関）という立場から、国との共催事業に乗り出すこととなり、このシンポジウムを開催した。本シンポジウムの目的は、映像メディア業界における女性の活躍を促進することである。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

シンポジウム「映像メディアの世界における女性の活躍」
24日：「アジアの女性映画人のいま：新たなネットワーク構築」
25 日：「メディアで拓いた女性のキャリア：映画とテレビ」

【日時】平成 23 年 10 月 24 日（月），25 日（火）18：00～21：00
【場所】 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1 階リバティホール
【参加者数】 120 名（2 日間）
【プログラム】
24 日：基調講演「アジアにおける女性映画祭のネットワーキングについて」
　　パネルディスカッション：「女性映画人の将来」
25日：映画「女性監督にカンパイ！」（山崎博子監督：ドキュメンタリー）上映
　　パネルディスカッション「経験から語る映画界・テレビ界の女性」

【参加者からの主な意見】

「女性ならではの感性を活かした映画の広がりにより、男性ではなく女性が主体となって動くことが大切だと感じられた。」との感想が寄せられた。

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）】

第24回東京国際女性映画祭（10月23日～26日）の期間中に来日したアジア各国の女性映画祭代表者に登壇を要請し、アジアの女性映画人の現状と問題点、多国間ネットワークの重要性、キャリア形成の課題などについて話し合う国際的シンポジウムの実現に漕ぎつけることができた。

【今後の課題】

１．映画製作やメディアの現場は男性が大多数を占め、映像で表わされる“女性”は、男性の視点で描かれていることが多い。
２．欧米への留学経験や、映像を専門に教える学校の普及、デジタルカメラの登場で機材が安く手に

入るようになったことで、アジア各国で女性の映画監督が増えているが、作品が映画館で上映されるケースは少ない。(2011年東京国際映画祭では、コンペティション作品15本のうち女性監督の作品は一本もなかった。）女性監督の作品はドキュメンタリーに偏りがちである。

３．韓国、台湾では、映画祭を運営する際に政府からの助成金があり、女性監督の育成にプラスの効果が発揮されている。ただし、助成金頼みが続くと、それが削減・廃止された時に、活動が頓挫してしまう恐れがあり、必ずしも有効とはいえないことも指摘された。

４．テレビ局で働く女性にとって、ディレクターや報道記者としてのキャリア形成は男性よりも困難が多い（私生活との両立、不規則な勤務時間、体力、組織内のキャリア形成過程の不明瞭さ）

以上の課題があげられ、今後、当センターとしても女性のメディア業界での活躍促進のために、具体的アプローチを模索していく必要があることを確認した。